

新海作品の若者の受容に関する日中比較 — 映画『君の名は。』を中心に —

The Comparison on the Acceptance of Makoto Shinkai's Films, Focusing on Your Name by Young Japanese and Chinese

学籍番号:201821646

氏名:駱 泓

Luo Hong

近年、日本アニメ映画が日中の若者の間で人気を博している。なかでも、2017年に日本の歴代邦画興行収入ランキング第2位となった新海誠の『君の名は。』は、中国で日本映画の年間興行収入ランキング第1位であった。それまでの作品と一線を画したこの作品の公開により、新海誠のファンが10万人から2000万人に増加した一方、批判も殺到した。

日本アニメの中国での受容に関する研究として、遠藤(2008)は中国でのフィールドワークをもとに、日本アニメは中国の青年たちの精神形成に大きな影響を及ぼすと論じた。また、新海作品に関する研究は、Zahlten(2019)、木村(2016)等があるが、新海作品の「男女の出会い・すれ違い」「文芸性」などに感動する基礎となる、受け手のライフストーリーは調査されなかった。そのため、日中を席卷した『君の名は。』ブームの理由を先行研究は必ずしも説明できていない。また新海誠自身が影響を受けたと語る作品には「滅びの美」を備えたものが多い。『君の名は。』も日本を舞台とし、滅びの美を備えた映画であるのに、文化的背景の異なる人々に受け入れられたのはなぜか、特に新海作品における「報われない恋」「閉ざされた恋」は高校時代の恋愛経験によって捉え方が変化するのか、調査した研究はない。

そこで本研究は、質的調査の手法を用い、ライフストーリーに基づいて、中国の若者が①日本の高校生活をモチーフにし、②滅びの美を意識した日本映画をどのように受容しているのかを明らかにすることを目的とする。本研究では、調査対象者(日5名、中7名)を古参ファン・新規ファンの縦軸と、中国人・日本人の横軸からなるマトリックスで分け、さらにブルデューのいう文化資本の議論を補助線として分析、考察する。

結果として、まず②滅びの美の捉え方は、日中の差よりも新規ファンと古参ファンの差が大きいことがわかった。古参ファンは商業主義に巻き込まれた『君の名は。』より『秒速5センチメートル』を高く評価した。また桜が散る場面の強調等、後者の方が前者より滅びの美を強く打ち出していて、その場面を良いという人が古参ファンには多いため、彼らは新海作品の滅びの美を理解しているといえよう。しかも、文化資本を備えるファンは持ち前の鑑賞力によって新海誠作品に文学性を見いだしたり、アニメ映像を玩味したり、技術批評さえしたりする傾向がある。次に、①の高校生活は、日中で大きく差があり、その差を中国の調査対象者は強く意識しており、彼らは基本的に日本の高校生の青春に憧れる気持ちが強い。また、日中の古参ファンは新海作品の「恋」を純粋な恋愛として捉えた。

考察として、中国では新海作品は『君の名は。』しか上映されていないが、中国の古参ファンが、過去の新海作品を海賊版等で見て、それに関するサイトを検索して、そこで日本通の人から紹介された日本文化・思想の概要を入手してきたため、②の滅びの美において日中の差よりも古参新規の差の方が大きくなったと考えられる。中国ではコンテンツに対する政府のコントロールが厳しく、海賊版を視聴する人は規制遵守よりも見たいという気持ちを優先させる人と考えられる。教師や親による高校生の恋愛へのコントロールも規制の一種である。それゆえ、海賊版等で視聴してきた人は高校時代に恋愛した人が多く、なおかつ、大っぴらに恋愛できる日本の高校生活に憧れる人が多かったのではないのかと推測できる。

研究指導教員：後藤 嘉宏
副研究指導教員：照山 絢子